京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

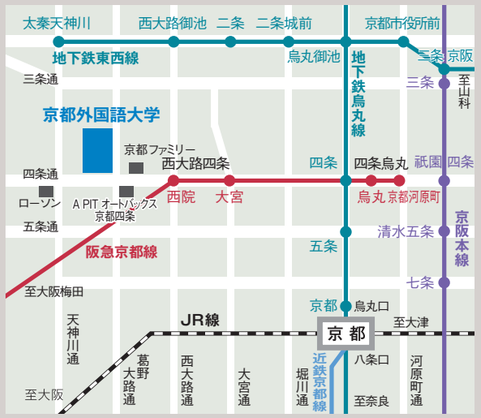
【大学院事務室】
〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6
TEL 075-322-6603

大学院公式ホームページ

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE since 2004
II UNIVERSITY
2023.4~2030.3

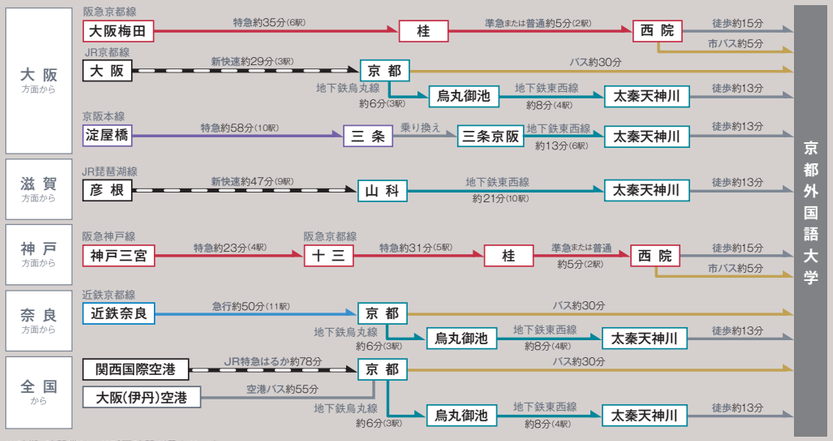
京都外国語大学は、令和5年度日本高等教育評価機構の認証評価において、大学基準に適合していることを認定されました。

京都外国語大学へのアクセス



- 阪急京都線利用の場合は、「西院」駅から西へ徒歩約15分。または市バス「西大路四条」(西院)から3・8・28・29・67・69・71系統に乗車、「京都外大前」で下車。(所要乗車時間約5分)「大阪梅田」駅から「西院」駅までは約40分。
- JR線利用の場合は、「京都」駅烏丸口から市バス28系統、八条口から市バス71系統に乗車、「京都外大前」で下車。(ともに所要乗車時間約30分)
- 地下鉄烏丸線利用の場合は、「四条」駅で下車、市バス「四条烏丸」から3・8・29系統に乗車、「京都外大前」で下車。(所要乗車時間約15分)
- 地下鉄東西線利用の場合は、「太秦天神川」駅から南へ徒歩約13分。
- 京阪本線利用の場合は、「三条」駅から地下鉄東西線に乗り換え、「太秦天神川」駅から南へ徒歩約13分。

交通アクセス



※時期・時間帯により所要時間が異なります。

大学院博士前期課程の
研究領域が変わります(届出予定)。

大学院博士前期課程入試の
試験科目等を変更します。

京都外国語大学 大学院

大学院ガイド 2026

PAX MUNDI PER LINGUAS

Kyoto University of Foreign Studies Graduate School

言語が関係する人間の叡智を追究し、「知」への階梯を進む。

京都外国語大学の大学院博士前期課程では、世界の言語の本質を言語学の観点から幅広く深く研究、分析することの道が開かれています。
世界には少なくとも870万種もの生物が存在するとされている中で、唯一我々人類だけが言語を有しています。人類が言語を約10万年前に獲得し、言語の獲得により抽象物の表象を意識の中に安定的に有することで、論理の発展、抽象思考、文明の創造、そして文化、伝統へと進んできました。その言語の獲得が他の生物との決定的な違いとなり、今日の発展を成し遂げたのです。そのようにして発展した文化や社会も研究対象となりえるのです。
文化研究の中には観光学という道もあります。その文化の中で人間は他者に教えるという技法を生み出し、それは現在では教育へとつながっています。また、英語教育と日本語教育に関しては、教育内容、教育方法などを深く、幅広く研究することができます。
博士後期課程は言語文化領域と言語教育領域の2領域があり、博士前期課程で研究した内容を、さらに高度な分析と技法を用いて、人の理解、世界情勢の理解を通し、世界平和に貢献できる道を開いているのです。
このように、言語が関係する人間の叡智を追究し「知」への階梯に進んでください。

学長　**小野　隆啓**　ONO Takahiro

建学の精神

PAX MUNDI PER LINGUAS（パックス ムンディ ペル リングアス）
言語を通して世界の平和を

第二次世界大戦後、創立者の森田一郎・倭文子は「世界平和を実現するためには外国語の修得とその言語圏に対する理解が必要である」と考え、本学園を興しました。以来、多くの学生がその遺志を継ぎ、教育・研究の基本精神「不撓不屈」のもと不断の努力をもってさまざまな外国語・外国文化の研究に取り組み、国際社会で活躍できる人材をめざしてまい進しています。建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS−言語を通して世界の平和を−」の想いとは、言葉を学び、お互いの文化を知り、相手を思いやる心を育むことです。グローバル化時代を迎えた現代において、これまで以上に重要な意味を持つようになってきています。

ミッション・教育目標

本学の教育の理念は「国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる『人間力』豊かなリーダーの養成」です。本学が求める「人間力」とは、「国際社会の一員としての責任を自覚し、教養豊かな魅力ある人間として力強く生きていくための総合的な力」のことです。
この教育理念を達成するための具体的な教育目標は、

① 学問に裏付けられた実践的な複言語運用力
② 世界平和のための社会性と対人関係性の向上に資するコミュニケーション力
③ 日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力

の3つの力を備えた人材を育成することです。

ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

外国語学研究科は、外国語学の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、研究者、教育者のみならず、広く国際社会に貢献し得る人材を育成し、言語を通して世界の平和に貢献することを目的としています。博士前期課程及び後期課程の目標を以下のとおりとし、前期課程は修了に必要な単位を修得し、修士論文または個人研究成果報告書の審査に合格した場合に、修士（言語文化学）の学位を与えます。博士後期課程は博士論文審査に合格した場合に、博士（言語文化学）の学位を与えます。

博士前期課程

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を兼ね備えた人材の育成を目的としています。

博士後期課程

■言語文化領域
最新の学術研究の探求を通じた、言語・文化に関する多角的な視点と独自の研究能力の修得

■言語教育領域
英語教育および日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、かつ説得力ある指導力と独自の研究能力の修得

カリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

外国語学研究科は、異言語・文化専攻における専門分野の研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力、その基礎となる豊かな学識を修得させることを目的としています。
博士前期課程は、言語、文学・芸術、歴史・文化・社会、国際関係、観光の学際的、総合的研究、並びに英語、日本語の言語教育・学習方法論の研究を行うことをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進します。
博士後期課程は、世界の諸地域における人間の営みの中核をなす文化を、言語を通して根源的に解明できる人材を育成すること、また、多分野に通じた創造性ある言語教育者を育成することをカリキュラム・ポリシーとして教育研究活動を推進します。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）

本学の教育の目的・理念・目標を理解し、新しい知の体系の創造と新しい時代を担うことのできる幅広い視野と柔軟な思考を備え、国際社会に貢献したいという意思のある次のような学生を広く国内外から求めます。

▽求める学生像

博士前期課程
①グローバル化する国際社会に対応できる高度な専門職をめざす人
②教育機関で専門的な指導ができる教育者をめざす人
③言語文化・言語教育の学術研究分野で専門的研究者をめざす人

博士後期課程
①国際的視点に立った研究を行い、その成果を人類に広く還元し、社会に大きく貢献する研究者をめざす人
②従来の理論や常識を越える独自の研究をめざす人

沿革はQRコードからご覧ください。

※この大学院ガイドは、2025年4月現在の情報に基づいて作成しています。

NEW　大学院博士前期課程のカリキュラムが2026年度から新しくなります（届出予定）。

博士前期課程では、2026年度から、異言語・文化専攻に設けている２コースを廃止し、各コース内の研究領域を再編成します。※研究科名や専攻名、取得可能な学位に変更はありません。文部科学省に届出予定で、内容が変更になる場合があります。
これまで地域等で分かれていた研究領域を、「言語学」などの研究分野により再編成することで、新たな研究分野を軸にした授業科目の編成となり、より一層自分の研究に合った分野で研究を進めることができるようになります。
なお、この新しい研究領域は、2026年度入学者から適用されます。
新しい研究領域：「言語研究領域」「文学・芸術研究領域」「歴史・文化・社会研究領域」「国際関係領域」「観光学領域」「実践英語教育領域」「実践日本語教育領域」※社会人入試は「実践英語教育領域」「実践日本語教育領域」において募集する予定です。

2026年度（2025年度実施）大学院博士前期課程の入試における変更

博士前期課程では、2026年度入試（2025年度実施）において、以下のとおり選考方法等の変更を予定しています。内容については、必ず「2026年度募集要項」（2025年7月に本学ホームページに掲載予定）で確認してください。

1. 一般入試および社会人入試の筆記試験科目を「専門科目」に変更します。
2. 外国人学生は、出願までに所定の日本語能力に関する検定試験に合格していることを出願の要件とします。
3. 出願書類「研究計画書」における記述項目を指定します。
4. 入学後のミスマッチを防ぐため、出願期間前に、希望する研究指導教員にご自身が考えている研究内容の指導が可能かどうかを確認したうえで出願していただきます。

※現時点での変更内容はQRコードからご確認ください。

大学院 外国語学研究科

外国語学研究科構成図

- 京都外国語大学大学院 外国語学研究科
  - 異言語・文化専攻
    - 博士前期課程
      - 言語研究領域
      - 文学・芸術研究領域
      - 歴史・文化・社会研究領域
      - 国際関係領域
      - 観光学領域
      - 実践英語教育領域
      - 実践日本語教育領域
    - 博士後期課程
      - 言語文化領域
      - 言語教育領域

独自性に満ちた「異言語・文化専攻」。

本学大学院は、外国語学研究科異言語・文化専攻という単一専攻で構成され、博士前期課程と博士後期課程が設置されています。
自分から見て「異なる」言語や文化の放つ魅力に惹かれて、ただの興味関心から進めて、深く掘り下げる研究をするために大学院に進学した人は、対象としている言語文化の文脈に視点を移したうえで、さらに偏向のない客観的で冷静な視点で観察・分析を行う力を養っています。観光学領域では、社会科学の研究手法も取り入れています。言語教育の現場に興味がある人は、近代科学の知を超えた新たな実践の知のあり方に挑戦しながら研究を進めています。オリジナルな知見に満ちた研究成果を発表したり論文にまとめたりする際には、教員指導のもと、正確で論理的なプレゼンの力、記述の力を身につけていき、実社会が期待する人材へと成長しています。皆さんも大学院での研究活動を通して自分を磨いてみませんか。

外国語学研究科長
由井　紀久子　教授
YUI Kikuko

博士前期課程

- 理論と実践・実証の直結指導で、多様な進路を拓く。
- 現職教員も勤務を続けながら修士号が取得できるカリキュラム。
- 優れた業績を上げれば、最短1年で修了することが可能。

博士前期課程
- 言語研究領域
- 文学・芸術研究領域
- 歴史・文化・社会研究領域
- 国際関係領域
- 観光学領域
- 実践英語教育領域
- 実践日本語教育領域

▶ 授与学位　修士（言語文化学）
▶ 標準修業年限　2年
▶ 入学定員　40名

実践的に専門知識を修得して、国際社会で活躍できる人材へ。

博士前期課程では、言語研究、文学・芸術研究、歴史・文化・社会研究、国際関係、観光学、実践英語教育、実践日本語教育の7つの各領域において、理論と実践を直結させた独自の指導体制により、専門的知識や国際社会に貢献できる専門的能力を兼ね備え、国際的に展開する企業で活躍できる人材、国連やNGOなどで国際社会に貢献する専門家、通訳・翻訳家、英語教育や日本語教育の現場で活躍できる人材の育成を目指します。
また、職業を有するなどの理由により、標準修業年限での修了が困難と認められた学生を対象に、入学金を除く2年分の学費で最長4年まで履修期間が延長できる「長期履修制度」を設け、仕事等と両立しながら学ぶ機会を提供しているほか、実践英語教育領域と実践日本語教育領域では、社会人を対象に標準修業年限を1年とする課程を設置しています。

1年次
- 指導教員（主査）決定

▶

2年次
- 修士論文または個人研究成果報告書題目届提出
- 「修士論文等の中間発表を行う」博士前期課程研究発表会
- 修士論文等提出
- 口述試問（非公開）

言語研究領域

言語の形式と運用の中に潜在する各種法則性を、時には言語文化にまで言及し、研究します。

本領域では、言語そのものを主たる対象として、各種の学修・研究を進めます。ここでは、例えば諸言語の語彙、文法、文字、音韻等を研究対象にするのはもちろん、時には他の言語との対照や言語文化現象にまで考察の範囲を広げて、言語形式の決定とその運用の中に潜在し活用され続ける原理・法則を確認・発見し、自説として提示することに目標を置きます。また、研究の過程に不可欠な先行研究に対するクリティカルな読みの体得と、自己の研究に対する俯瞰的でフェアな視点の獲得も、本領域での学修と研究において求められる事項です。加えて、他の研究者からの批判も受け止めたうえで自説を立ち上げるという、研究一般におけるプロセスを修了時までに充分に体験し、研究者としての基礎を固めることを目指します。

ゼミ担当教員（予定）

言語学研究ゼミ

小野 隆啓 教授
研究分野｜統語論（生成文法）、言語獲得、意味論

野澤 元 教授
研究分野｜認知言語学、語用論

吉川 裕介 准教授
研究分野｜語彙意味論、構文文法論

ヨーロッパ言語研究ゼミ

岡本 信照 教授
研究分野｜スペイン語学、スペイン語史

石丸 久美子 教授
研究分野｜言語文化学、言説分析、日仏比較

橋本 政義 教授
研究分野｜ドイツ語学、対照言語学

羽根田 知子 教授
研究分野｜ドイツ語学、冠詞論、品詞論

ペドロ アイレス 教授
研究分野｜ポルトガル語学・文学

東アジア言語研究ゼミ

大西 博子 教授
研究分野｜中国語学、中国語方言研究

岡本 俊裕 教授
研究分野｜中国語学

島村 典子 教授
研究分野｜中国語学

朱 一星 教授
研究分野｜現代中国語、現代漢字論

彭 飛 教授
研究分野｜日中言語（文化）比較、日本人と外国人とのコミュニケーション研究

苗 芡 教授
研究分野｜日中言語対照研究

楊 蕾 准教授
研究分野｜日中対照言語研究、中国語学

ユーラシア言語研究ゼミ

菱川 邦俊 教授
研究分野｜スラヴ言語学（ロシア語学、ブルガリア語学）、言語類型学

グリゴリー ミソチコ 准教授
研究分野｜比較教育学、ロシア語教育、日本語教育

文学・芸術研究領域

多様な言語・文化を背景とする文学・芸術の時代を超えた新たな価値を探究します。

本領域では以下を教育研究目標とします。
1. 多様化する時代のグローバル・シチズンとして国境やジャンルを超えた文学・芸術の新たな価値を発見する。
2. 古典から現代まで時代を超えた普遍的な創造行為として文学・芸術をとらえ、探究する。
3. 自己の背景となる言語・文化を相対化し、国際的な視点での多角的な思考力を身につける。

地域的にはアメリカ・イギリスを起点とする英語圏、スペイン語圏、フランス、イタリアなどのヨーロッパや日本を中心に、文学、舞台芸術、映画、美術、ポピュラーカルチャー（ポピュラーソング、漫画、アニメ等）など多様なジャンルの文学・芸術や文化活動を研究対象とします。
本学の建学の精神に基づき、言語や文化の異なる人々との真の相互理解のために、各言語・文化の深い理解を基盤としながら、多様な時代・地域における創造行為としての文学・芸術の新たな価値を発見・探究し、学術的に定義することを目指します。

ゼミ担当教員（予定）

文学・文芸研究ゼミ

河野 弘美 教授
研究分野｜19世紀英文学、印刷文化と社会改良

近藤 直樹 教授
研究分野｜イタリア演劇、ナポリ文化史

坂本 季詩雄 教授
研究分野｜アメリカ文学、文化史、映画研究

中山 智子 教授
研究分野｜フランス18世紀文学

長濵 拓磨 教授
研究分野｜日本近代文学

橋本 勝雄 教授
研究分野｜現代イタリア文学、イタリア言語学

ダニエル アリエタ 准教授
研究分野｜比較文学、多読、社会心理学

歴史・文化・社会研究領域

多様な言語・文化・歴史・社会を、さまざまな専門家とともに総合的に研究します。

世界各地の歴史、文化、社会構造に関する研究を行います。言語や文化の多様性を尊重しながら、歴史的背景や社会変動を総合的に探究することが特色です。多様な理論的枠組みや方法論を学び、文献資料の精密な分析やフィールドワークを通して、対象を深く理解する力を養います。また、異文化間の相互作用やグローバルな視点からの社会現象の考察も重視しています。この領域での学びを通じて、複雑な歴史的・文化的事象を批判的に読み解く力、多角的に社会を分析する力、そして専門的知見をもとに自らの考察を発信できる力を身につけることができます。

ゼミ担当教員（予定）

歴史文化研究ゼミ

大越 翼 教授
研究分野｜中米先住民社会の歴史人類学、マヤ文献学

立岩 礼子 教授
研究分野｜スペイン帝国の文化史

比較社会学研究ゼミ

ユイス バユス 教授
研究分野｜社会構造と政治経済制度の国際比較

社会文化研究ゼミ

伊藤 秋仁 教授
研究分野｜ブラジル地域研究、移民史、人種関係

菅野 瑞治也 教授
研究分野｜ドイツ文化史、ドイツ文学

比較哲学・宗教学研究ゼミ

竹下 ルッジェリ アンナ 教授
研究分野｜宗教哲学、比較宗教、禅学

アンドレーア レオナルディ 教授
研究分野｜哲学、文化史学

国際関係領域

国際関係上の諸問題を学際的視点から分析・研究します。

本領域では、これまでの長年にわたる外国語教育の伝統を基盤に置きつつ、国際関係を分析するための基礎的な概念や理論を踏まえたうえで、東アジアやアメリカを中心とする世界各地域の情勢を理解するための専門科目群（特に地域研究領域に関する科目）を配置しています。その際、歴史学（国際関係史）や政治学（比較政治学）を軸とする一方、比較文化の視点から国際関係や地域情勢を分析するための知識や研究手法も学びます。さらに、現代の複雑な国際関係を分析するにあたって、NGO（非政府組織）や多国籍企業、国際機構（国連等）といった国家以外のアクター（行為主体）も分析対象にします。国際的な視野と感覚を養いながら、議論・発表する能力や学術的な文書を作成する能力を高めることができます。

ゼミ担当教員（予定）

国際関係研究ゼミ

佐々木 豊 教授
研究分野｜アメリカ政治外交史・国際関係史

観光学領域

観光現象を経済・経営・文化・メディア・まちづくりの観点から研究します。

現代社会において、自然・文化・人間が複雑に絡み合う観光現象はグローバルな広がりを見せており、世界の各地域や人々の生活に多様な影響を与えています。日本社会の文脈では、訪日観光客の増加に伴い観光収入が増加する一方で、観光産業の生産性の向上や観光客の一部地域への集中といった社会的課題が存在します。今後、観光政策や観光ビジネスは、自然・経済・社会・文化の持続可能性の実現を理念として推進される必要があり、そのためには、複雑な観光現象をさまざまな学問分野の視点から分析できる人材が不可欠です。本領域では、経済学・経営学・観光文化論・メディア論・まちづくり論に造詣の深い教員陣の指導のもと、最先端の国内外の理論や現象を学び、京都という日本の観光の中心地において、多角的に観光現象を分析する力を身につけることができます。

ゼミ担当教員（予定）

観光計画研究ゼミ

蝦名 大助 教授
研究分野｜言語学、観光学

観光メディア研究ゼミ

戴 智軻 教授
研究分野｜社会情報学、観光学

観光文化研究ゼミ

原 一樹 教授
研究分野｜観光学、哲学、倫理学

観光経営研究ゼミ

増田 央 准教授
研究分野｜観光ホスピタリティ経営、マーケティング

観光経済研究ゼミ

藤本 茂 教授
研究分野｜経済学、協力の科学、先端科学技術

実践英語教育領域

理論と実践を統合し、英語教育の最前線で活躍できる人材の育成を目指します。

本領域には、理論と実践の両面から英語教育に関わるさまざまな科目が配置されています。ほとんどの講義は平日夜間、土曜日・日曜日、長期休暇中の集中講義で行われているため、現職教員も参加可能です。また、独自の制度として、教育機関での半年以上の英語授業実施に対して、訪問指導や個人指導で指導力を着実に伸ばし、その成果を単位認定することができます。そのような多彩な学びを通して、英語教育において卓越した指導力を発揮できる教育者の育成を目指します。

ゼミ担当教員（予定）

英語教育学研究ゼミ

石川 保茂 教授
研究分野｜MALL、CALL、コーパス言語学

吉田 真美 教授
研究分野｜第二言語習得研究（第二言語読解）

杉本 義美 教授
研究分野｜英語教育学、教育評価、英語指導法

レベッカ カルマン 教授
研究分野｜評価法、教授法、スピーキング、批判的思考、文化

安木 真一 教授
研究分野｜英語教育実践学（音読中心の技能統合型指導、Focus on Formによる指導、スローラーナーへの指導）

TOPICS

オンライン通学

1年制課程では、仕事や遠隔地等の理由により対面受講が困難な場合、各学期で指定された授業科目にそれぞれ２回程度対面参加することを条件に、その他はすべてオンラインで受講することが可能です。

実践日本語教育領域

現場の課題を分析する方法を身につけ、日本語教育実践能力の向上を目指します。

国内外の日本語教育現場では、日々さまざまな課題が生じています。本領域では、課題を解明する方法論の基礎作りをし、日本語教育の実践力を向上させることを重視した教育課程を用意しています。

社会制度・教育制度が関係する問題から、学習者の習得中の日本語を含めた日本語の言語現象に関する問題、日本語習得を妨げる要因などに関する問題まで多種多様な課題があります。それらの中ですぐに解決できない問題を研究対象として適切な理論を用いるなど学術的に解明し、修士論文作成過程において論理的に伝える力を得ることによって、課程修了後も日本語教育の現場で分析力のあるリーダー・専門家となることを目指しています。入学してくる学生には、国外からの進学者や日本語教育の現場で活躍している現役の日本語教員もおり、多様で刺激的な研究環境です。

※本領域では、日本国内の認定日本語教育機関で教えるのに必要な「登録日本語教員」の資格取得を目指すための科目や課程は設置していません。

ゼミ担当教員（予定）

日本語教育学研究ゼミ

坂口 昌子 教授
研究分野｜日本語学、日本語教育学

由井 紀久子 教授
研究分野｜日本語教育学、意味論

中西 久実子 教授
研究分野｜現代日本語文法、日本語教育文法

近藤 優美子 准教授
研究分野｜日本語学、日本語教育学

博士前期課程 可能性が広がる進路・学びのサポート

資格に直結した教育課程

外国語（英語）または国語の中学校・高等学校教諭一種免許状の取得者は、博士前期課程の実践英語教育領域または実践日本語教育領域の教職に関する所定の科目を履修し単位を修得すれば、外国語（英語）または国語の中学校・高等学校教諭専修免許状が取得できます。2領域以外の領域で研究を進める学生も所定の授業科目の履修は可能ですが、一部の修得単位は修了要件に含まれない場合があります。また、本学の学部出身者で、中学校・高等学校教諭一種免許状を取得していない場合、一定の条件を満たせば、京都外国語大学の科目等履修生制度を利用し、博士前期課程の2年間で外国語（英語）または国語の中学校・高等学校教諭一種免許状を取得できる場合があります。

将来の職業の選択肢が広がる。

専攻分野における研究能力やコミュニケーション能力を有する専門家は、これからの国際社会はもちろん、世界を舞台に展開するグローバル企業にとっても有為な人材です。修了生が活躍するステージは、国際機関、国および地方行政、国内外の大学や研究施設にとどまらず、NPOやNGO、民間企業、報道機関など、今後もますます広がっていくことでしょう。また、国内における外国人労働者の増加や海外での日本語学習熱の高まりを背景に、理論と実践の両面において優れた日本語教授能力を備えた人材へのニーズも高まっており、教育・研究の両面で将来が期待されます。

Student's Voice

終助詞や語気助詞に着目して「日中の性差表現」を考察。大学院の環境を存分に活用しながら、両言語の特徴に迫る。

私は日本語と中国語における性差表現を研究しています。日本語には「（～だ）ぜ、（～わ）よ」など多くの終助詞があり、使用する表現によって性差が顕著に現れる一方で、中国語の語気助詞は種類が少なく性差もあまり目立ちません。そこで小説やブログの文章を分析したり、アンケート調査を実施したりしながら、両言語の特徴やニュアンスの違いについて理解を深める毎日です。本大学院には、日中言語対照研究に精通した先生方が多く在籍されています。さらに、約62万冊の蔵書を誇る図書館や、中国人留学生との交流機会も豊富な環境が、研究の大きな支えになっていると感じます。言語が社会をどのように映し出し、形作っているのかを解明し、その成果を教育現場に還元していきたいです。

博士前期課程2年次生　言語文化コース／東アジア地域　飯塚 のどかさん

▶ 社会人を対象に、標準修業年限を1年とする課程を設置。

博士前期課程の標準修業年限は2年ですが、実践英語教育領域・実践日本語教育領域では、2年以上学校で英語教育あるいは日本語教育、国語教育に携わっている人、またはその経験がある社会人に対し、標準修業年限を1年とする課程を設けています。この場合、実践英語教育領域の学生は、土曜日に開講している科目を中心に、日曜日や休暇中の集中講義、夜間の授業を履修する必要があります。
なお、勤務形態によっては、1年で修了できない場合があります。また、実践英語教育領域の「オンライン通学」については、5ページをご参照ください。

▶ 2年分の学費で最長4年まで。「長期履修制度」

博士前期課程では、職業を有しているなどの理由により、標準修業年限での修了が困難と認められた学生を対象に、入学金を除く2年分の学費で最長4年まで履修期間が延長できる「長期履修制度」を設けています。時間的、経済的にもゆとりをもって履修することができるため、より多くの人に研究の機会を提供できる制度です。勤務状況の変化や長期不在など、さまざまな環境の変化にも対応でき、安心して自らの学びと研究に取り組むことができます。希望する場合は、入試出願時に申請する必要があります。ただし、1年制課程の学生は制度の対象とはなりません。

●長期履修する期間：2年6カ月、3年、3年6カ月、4年
●長期履修を認められた者の学費（入学金を除く）

$$= \frac{\text{【通常の年間（春学期および秋学期）授業料＋教育充実費】×【標準修業年限（2年）】}}{\text{【長期履修を認められた年数】}}$$

▶ 優れた業績を上げると、最短1年で修了することが可能。

博士前期課程では、次の条件をすべて満たす場合、「優れた業績を上げた者」と認められ、在学期間を最短１年に短縮することができます。

① 博士前期課程において1年で修了要件単位を修得した者
② 博士前期課程1年次春学期において受講したすべての授業科目で、平均して高得点を収めた者
③ 修士論文または個人研究成果報告書において優れていると認められた者

※上記の条件は変更になることがあります。

教育訓練給付制度（申請予定）

「教育訓練給付制度」とは、働く人の主体的な能力開発の取り組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者（在職者）または一般被保険者であった人（離職者）が、実践英語教育領域・実践日本語教育領域を修了した場合、支払った教育訓練経費（本大学院への入学金および授業料）の20％に相当する額（上限10万円）がハローワーク（公共職業安定所）から支給されます。

Student's Voice

日本語を用いて思考を深め、教科を学ぶ力を育む。外国にルーツを持つ子どもたちへの支援方法を模索。

長年にわたり国内外で教職に従事し、定年退職後は日本語学校と小学校で日本語を教えています。そこで外国にルーツを持つ子どもたちが直面する多様な問題を知ったことから、支援方法を模索するべく本大学院に進学しました。彼らには生活言語と学習言語の両方の習得が求められますが、日本語を完全に理解してから教科の学習を始めるのでは、周囲との差が広がってしまいます。重要なのは、日本語を用いて思考を深め、教科を学ぶ力を育てることです。そのため、やさしい日本語に書き換えた教科書や母語に翻訳した教材を活用し、日本語指導と教科指導を並行して行う方法を研究しています。日本語教員として、理論と実践の双方を深く学べる本大学院の環境を活用し、研究内容を深化させていきます。

博士前期課程2年次生　実践言語教育コース／日本語教育　杉山 仁さん

博士前期課程 修了要件（2026年度）

〈2年制・修士論文の審査による場合〉

必修/選択	科目区分		修了要件単位数	
必修	学位（修士）論文		合格（単位なし）	
	専門ゼミ（必修）※指導教員（主査）		8単位	
	共通科目	研究基礎論概説	2単位	
		データ科学I	2単位	
選択	専門ゼミ（選択）※指導教員（主査）以外		0単位以上 ※6単位まで算入可	18単位以上
	専門科目	専門科目A群	4単位以上 ※6単位まで算入可	
		専門科目B群	6単位以上 ※10単位まで算入可	
	共通科目（選択）		2単位以上 ※6単位まで算入可	
修了に必要な総単位数			30単位以上	

※個人研究成果報告書の審査による場合の修了要件単位は32単位

〈1年制（実践英語教育・実践日本語教育）・修士論文の審査による場合〉

必修/選択	科目区分		修了要件単位数	
必修	学位（修士）論文		合格（単位なし）	
	専門ゼミ（必修）※指導教員（主査）		4単位	
	共通科目	研究基礎論概説	2単位	
		データ科学I	2単位	
選択	専門ゼミ（選択）※指導教員（主査）以外		0単位以上 ※2単位まで算入可	22単位以上
	専門科目	専門科目A群	6単位以上 ※10単位まで算入可	
		専門科目B群	8単位以上 ※16単位まで算入可	
	共通科目（選択）		0単位以上 ※6単位まで算入可	
修了に必要な総単位数			30単位以上	

※個人研究成果報告書の審査による場合の修了要件単位は32単位

博士前期課程 授業科目一覧（2026年度予定）

領域	科目区分	授業科目名
言語研究領域	専門ゼミ	言語学研究ゼミ
		ヨーロッパ言語研究ゼミ
		東アジア言語研究ゼミ
		ユーラシア言語研究ゼミ
	専門科目A群	言語学特論I～Ⅲ
	専門科目B群	言語学特殊研究I～Ⅴ
文学・芸術研究領域	専門ゼミ	文学・文芸研究ゼミ
	専門科目A群	文学・文芸特論I～Ⅳ
	専門科目B群	文学・文芸特殊研究I～Ⅷ
歴史・文化・社会研究領域	専門ゼミ	歴史文化研究ゼミ
		社会文化研究ゼミ
		比較哲学・宗教学研究ゼミ
		比較社会学研究ゼミ
	専門科目A群	歴史文化特論
		社会文化特論
	専門科目B群	歴史資料特殊研究
		表象文化特殊研究I・Ⅱ
		現代社会特殊研究
		宗教哲学特殊研究I・Ⅱ
		対日交流特殊研究
国際関係領域	専門ゼミ	国際関係研究ゼミ
	専門科目A群	国際関係特論I～Ⅲ
	専門科目B群	国際関係特殊研究I～Ⅵ

領域	科目区分	授業科目名
観光学領域	専門ゼミ	観光計画研究ゼミ
		観光メディア研究ゼミ
		観光文化研究ゼミ
		観光経済研究ゼミ
		観光経営研究ゼミ
	専門科目A群	観光学特論I・Ⅱ
	専門科目B群	観光学特殊研究I～Ⅴ
実践英語教育領域	専門ゼミ	英語教育学研究ゼミ
	専門科目A群	英語教育実践演習I～Ⅲ
		英語教育リサーチメソッド
	専門科目B群	英語教育学特論I～Ⅳ
		英語指導法I～Ⅲ
		英語教育学演習I～Ⅲ
実践日本語教育領域	専門ゼミ	日本語教育学研究ゼミ
	専門科目A群	日本語指導法I～Ⅲ
	専門科目B群	日本語教育実践研究I～Ⅲ
		日本語教育特殊研究I～Ⅳ
		日本語研究I～Ⅲ
共通科目	共通科目	研究基礎論概説
		データ科学I
		学びの認知科学
		国際協力研究I・Ⅱ
		国際ビジネス研究I・Ⅱ
		言語と平和研究I・Ⅱ
		コミュニケーション能力とテスティング

主な就職先一覧（2022～2024年度）

株式会社エス・アイ・エス
株式会社NTTデータSMS
FIRST DEVELOP株式会社
株式会社CGBO
株式会社コスモスホテルマネジメント
株式会社物語コーポレーション
株式会社ワールドインテック
株式会社成学社
株式会社谷町君旅行
株式会社NECT
株式会社ECC
株式会社なんつね
山本光学株式会社
寺崎電気産業株式会社
東洋製鉄株式会社
株式会社ザ・ギンザ
株式会社エルライン
ニデック株式会社
株式会社滝つばめ
セイコーエプソン株式会社
清水物産株式会社
日本通運株式会社
イーストライズトランスポート株式会社
株式会社ビィ・フォアード
株式会社国華園
日本通商株式会社
株式会社CVC
株式会社スコープ
ウィーエクスプレス株式会社
株式会社ヨドバシカメラ
レーク滋賀農業協同組合
学校法人京都外国語大学
学校法人京都外国語大学 京都外大西高等学校
学校法人両洋学園 京都両洋高等学校
学校法人明徳義塾
学校法人大阪成蹊学園
青藤グループ株式会社

博士後期課程

- 実証性を重視し、現実の国際社会に貢献する研究者を養成。
- 先端科学など多分野に通じた創造性ある言語教育者を養成。
- 各領域間の交流と連携を強化し、教育と研究両面の充実を図る。

博士後期課程
- 言語文化領域
- 言語教育領域

幅広い発想・思考を促し、従来の理論や常識を超える研究を。

自らのテーマを深く掘り下げ、独創的な切り口や学術的にも価値ある内容を探り、博士論文を作成します。必要な指導や助言は研究指導教員により個人指導で行われるため柔軟な研究スケジュールが可能となり、有職者も続けやすくなっています。また、異なる研究領域を担当する教員からも指導を受けられるため、より広い視野からの発想・思考を促し、独自性のある研究成果につながることが期待されます。どちらの領域にも各分野で先進的研究を続ける教授陣が名を連ねており、加えて自らの知見と経験に基づく実証性を重視する立場から、従来の理論や常識を超える独自の研究を追究しやすい環境です。

▶ 授与学位　博士（言語文化学）
▶ 標準修業年限　3年
▶ 入学定員　3名

言語文化領域

世界の主要な言語とその背景となる多様な文化体系に関して、高度な専門知識に基づく多層的な研究と考察を行います。コーパス言語学や認知言語学など世界的にも進化のめざましい学術研究分野、現地での調査や経験的裏付けを求める地域研究など、多角的な視点と考察力の育成を主眼とした研究指導を展開。国際社会におけるグローバルな視点と個々の民族におけるローカルな視点を併せ持ち、研究で得た成果を広く人類に還元するとともに、常に社会への貢献を忘れない人間性あふれる研究者を養成します。

言語教育領域

英語教育および日本語教育の専門的指導に必要とされる高度な知識と見識、説得力ある指導法を修得するとともに、新しい教授法や教材開発などにも取り組みます。中学・高校での教育実習体験の情報や教員との共同研究で得たデータを分析するなどして現場意識を深め、また最新の脳科学研究から得られた先端情報に触れる機会を設けるなど、研究者としての見識を大きく広げられる指導を行います。これからの時代に求められる、創造的でかつ柔軟な対応力を備えた教育者および教育研究者を養成します。

1年次
- 博士論文研究計画書提出
- 指導教員（主査）決定

▶

2年次
- 博士論文概要・要約提出
- 第一次発表会（公開）［博士論文の概要を発表］
- 第二次発表申込
- 博士論文主要内容・要約提出
- 第二次発表会（非公開）［博士論文の主要な内容を発表］

▶

3年次
- 博士論文提出
- 口述試問（公開）
- 博士論文審査会

■ 研究指導等の内容

1年次では、博士前期課程での研究を発展させ、新しい研究への展開につなげる研究指導・助言を行うとともに、研究課題に応じた研究構想の立案の指導・助言を行います。2年次では、博士論文執筆に必要な文献の講読や調査などの指導・助言を行うとともに、研究の進捗状況に応じて指導・助言を行います。また、学会における研究発表や博士号授与の基準として求められる査読を要件とする学会誌などへ論文投稿できるよう指導します。3年次では、研究成果を相互討論して内容を深め、博士論文の完成に至るまでの研究指導・助言を行います。

Student's Voice

時代とともに変遷を遂げてきた「狐女」のイメージ。当時のジェンダー観との関連性も交えて考察を深める。

京都外国語大学日本語学科に在籍していた頃、中国古典文学に関心を抱いた私。博士前期課程で清代の志怪小説におけるキャラクター「狐女」のイメージ変遷を探り、現在はその研究テーマをさらに掘り下げています。清代以前の作品と比較しながら、時代とともに狐女の描写や印象がどのように変化してきたのか、当時のジェンダー観や社会的価値観との関連性も交えて考察を深める日々です。京都外大の図書館には、中国文学や東アジア文化に関する豊富な文献があるため、論文執筆にあたって資料が不足することはありません。また、日本や西洋との比較など、異文化研究の視点を取り入れた学際的なアプローチが可能な環境も刺激になっています。研究成果を広く発信し、多くの人に中国古典文学の魅力を伝えていきたいです。

博士後期課程3年次生　言語文化領域　レイ ギョウさん

博士後期課程 研究指導教員（予定）

言語文化領域

大越 翼 教授
研究分野｜中米先住民社会の歴史人類学、マヤ文献学

藤本 茂 教授
研究分野｜経済学、協力の科学、先端科学技術

彭 飛 教授
研究分野｜日中言語（文化）比較、日本人と外国人とのコミュニケーション研究

苗 茨 教授
研究分野｜日中言語対照研究

小野 隆啓 教授
研究分野｜統語論（生成文法）、言語獲得、意味論

長濵 拓磨 教授
研究分野｜日本近代文学

野澤 元 教授
研究分野｜認知言語学、語用論

言語教育領域

中西 久実子 教授
研究分野｜現代日本語文法、日本語教育文法

安木 真一 教授
研究分野｜英語教育実践学（音読中心の技能統合型指導、Focus on Formによる指導、スローラーナーへの指導）

吉田 真美 教授
研究分野｜第二言語習得研究（第二言語読解）

由井 紀久子 教授
研究分野｜日本語教育学、意味論

TOPICS

社会に向けて公開講座・講演会を開催

京都外国語大学大学院では、研究成果を社会に還元するため、学内・学外講師による公開講座や講演会を開催しています。在学生や教職員だけではなく、一般の方にも幅広く参加していただくなど、大学院の知的資源を社会へ積極的に公開しています。

［ 開催例 ］※2024年度

講演会
講師：小松 和彦 氏
テーマ：研究は楽しい謎解き ―私の妖怪学を振り返って―

Student's Voice

ロシア人の日本語学習者に困難をもたらす「漢字」。その問題点を浮き彫りにし、より良い指導法の確立へ。

モスクワの大学で教員として学生に日本語を教えています。その経験を踏まえて設定した研究テーマが「非漢字系学習者を対象とした漢字を書く能力向上を促す指導法」です。ロシア人の日本語学習者にとって、漢字を書くことは最大の課題とされています。キリル文字とは異なる筆運びなど、その障壁や問題点を浮き彫りにして、より効果的な指導法の提案につなげたいと考えています。本大学院の先生方は皆、「させる」ではなく「導く」スタンスで接してくださるので、主体的に学びと向き合うことができます。また、論理性だけではなく入念な調査を大切にするアプローチなど、日本で身につけた研究手法は大きな財産です。自身の研究はもちろん、母国の教え子たちにも学びを還元したいと思います。

博士後期課程3年次生　言語教育領域　セルゲエワ アナスタシアさん

入学試験概要

2026年度入学試験（2025年度実施の入学試験）より、博士前期課程の筆記試験科目を「専門科目」に変更し実施する予定です。詳細は募集要項をご確認ください。

2026年度入学試験日程

入試制度		出願期間	試験日	合格発表日
博士前期課程（2年制課程）	学内推薦入試	2025年7月29日（火）～8月4日（月）	2025年9月14日（日）	2025年9月15日（月）
	一般入試Ⅰ期	2025年7月29日（火）～8月4日（月）	2025年9月14日（日）	2025年9月15日（月）
	一般入試Ⅱ期	2026年1月13日（火）～1月19日（月）	2026年2月22日（日）	2026年2月23日（月）
博士前期課程（1年制課程）	社会人入試Ⅰ期	2025年7月29日（火）～8月4日（月）	2025年9月14日（日）	2025年9月15日（月）
	社会人入試Ⅱ期	2026年1月13日（火）～1月19日（月）	2026年2月22日（日）	2026年2月23日（月）
博士後期課程	一般入試	2026年1月13日（火）～1月19日（月）	2026年2月22日（日）	2026年2月23日（月）

■ 入学試験募集要項・出願書類入手方法

本学ホームページの入学試験ページから募集要項と出願書類のダウンロードが可能です。（2025年7月に公開予定）

入試情報

■ 過去の入学試験問題入手方法

Eメールで送信します。希望の方は、メールの件名を「大学院入試の過去問請求」とし、
本文に①氏名、②メールアドレス、③電話番号、④希望する課程・研究領域・受験科目を明記し、
大学院事務室（daigakuin@kufs.ac.jp）にご連絡ください。

※博士前期課程一般入学試験および社会人入学試験は、2026年度入学試験より筆記試験科目を変更するため、過去問題はありません。

■ 出願前の事前連絡

入学後のミスマッチを防ぐため、出願期間前にご自身の希望する研究指導教員とコンタクトをとり、
ご自身が考えている研究内容の指導が可能かどうか相談のうえ出願してください。
教員の連絡先は本学ホームページをご確認ください。

博士前期課程 教員情報　博士後期課程 教員情報

学 費

入学年度に必要な費用（2025年度参考）

（単位：円）

課程	納入時期	学費				合計
		入学金	授業料	教育充実費	学園振興協力費	
博士前期課程（2年制課程）	入学時	180,000	282,500	97,500	7,000	567,000
	秋学期	–	282,500	97,500	–	380,000
博士前期課程（1年制課程）	入学時	180,000	376,500	97,500	7,000	661,000
	秋学期	–	376,500	97,500	–	474,000
博士後期課程	入学時	180,000	282,500	97,500	–	560,000
	秋学期	–	282,500	97,500	–	380,000

研究活動のサポート

付属図書館や研究所など、京都外国語大学ならではの国際的な施設や充実した設備、
長期の留学プログラムにより、教育研究活動をサポートしています。

研究施設・設備

5号館

1階に事務室、2・3階に教室、4階に大学院生用の共同研究室やロッカーを設けています。大学院生の研究活動を支援する施設です。

大学院生研究室

午前9時から午後11時まで大学院生が自由に使えるスペースです。個人の専用ロッカー、調べものや論文作成に必要なコンピューターや辞書類、連絡ボードなどを備えています。

国際言語平和研究所

国際言語平和研究所は、「PAX MUNDI PER LINGUAS–言語を通して世界の平和を–」の建学の精神の下に、外国語および国際社会と地域文化に関する学術的研究・調査を積極的に推進し、学術・文化の向上および世界の平和に寄与することを目的に設置されました。本学教職員および大学院生への研究支援を柱に、国内外の大学および研究機関等との共同研究・学術交流をはじめ、機関誌、学術図書等の刊行、学会、学術講演会、公開講座等を開催し、広く社会に研究成果を発信しています。

付属図書館

蔵書数約62万冊、学術雑誌約3,800種を有する付属図書館には、本館と分館があります。価値のある世界的なコレクションを含め、研究に必要な資料を揃えています。また、分館のアジア関係図書館は、中国やアジアに関する研究書や西洋言語で書かれた日本研究資料を所蔵し、さらに併設の京都国連寄託図書館では国連資料の閲覧が可能です。

留学プログラム

出願書類、口頭試問により選考した学生を1学期間（6ヵ月間）または2学期間（1年間）、海外の協定大学に派遣する制度です。留学先大学の授業料が免除されるほか、本学から奨学金を支給します。

▶ 交換留学プログラム［派遣留学A］

本学からの奨学金／博士前期課程：一律350,000円　博士後期課程：一律360,000円
※上記の支給額は留学期間が２学期間の場合の金額で、１学期間の場合は１／２相当額を支給します。

研究支援

本大学院に在学する学生の研究支援として、次の通り奨励金が支給されます。

▶ 研究発表奨励金

国内外の学会等における研究発表に対し奨励金が支給されます。

博士前期課程

▶ 優秀論文奨励金

毎年度9月に開催される研究発表会と、2月に行われる修士論文審査会を経て、優秀な論文であると評価されたものに対し奨励金が支給されます。

博士後期課程

▶ 論文実績評価奨励金

「3件以上の口頭発表」または「2件以上の査読付き論文掲載」の実績に関する申請に基づき、その発表または掲載が全国規模の学会及び学術刊行物におけるものと判断された場合、その実績を評価し奨励金が支給されます。

経済的支援

本大学院に在学する正規生で、勉学に励みながら経済的に修学が困難な学生に対して支援する制度があります。

・「学費補助奨学金（給費）」※在留資格「留学」を有する人を除く（支給額：150,000円、採用人数：3名、採用回数：在学中1回）
・「私費外国人留学生授業料減額制度」※在留資格「留学」を有する人（年間の授業料の30％を減額、毎年度申請可）

その他

ティーチング・アシスタント制度
大学院生に指導者としての教育訓練の機会を提供することを目的として、教育的配慮のもとに教育補助業務を行う制度です。

アカデミック・チューター制度
日本人の大学院生が、本大学院に在学する外国人留学生に対し、指導教員のもと、学位論文の指導補助などを行う制度です。